

研究課題名	マクロライド系抗菌薬少量持続療法が耐性菌化へ及ぼす影響に関する検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之
研究期間	臨床研究倫理審査委員会承認後 ～ 2022年3月
研究の意義・目的	AMR (anti-microbial resistance) action planは抗菌薬の適正使用を推進することにより、耐性菌の出現や伝搬を防ぎ、耐性菌感染症による健康被害や死亡者数を減らし、人類の健康増進を図る計画であり、世界的に取り組むべき対策として2015年にWHOから各国が到達を目指すべき指標が採択され、日本でも2016年に厚生労働省からAMR action planが打ち出され、各医療機関は、その目標に向かって努力することが義務付けられました。一方、近年マクロライド系抗菌薬の少量持続投与が慢性呼吸器疾患に対して、その抗菌薬活性とは異なる薬理効果を期待して多くの臨床現場で広まっています。その結果、マクロライド系抗菌薬に対する耐性菌化の懸念が指摘されています。本研究では、マクロライド系抗菌薬の少量持続投与を受けている慢性呼吸器疾患から得られた喀痰検出菌の耐性菌化の動向をそれ以外の患者から検出されたものと経時的に比較することにより、マクロライド系抗菌薬少量持続投与法の耐性菌化に及ぼす影響について比較検討します。本研究の結果は、AMR action planの遂行に向け、貴重な情報を与えてくれると考えます。
研究の方法 (対象期間含む)	方法:後ろ向き調査観察研究 対象期間・対象・調査項目:2018年4月から2021年3月までの期間に当院で喀痰培養検査を受けた患者の中から、処方履歴データからマクロライド系抗菌薬少量持続投与治療を受けた患者を抽出し、それ以外の患者から得られた喀痰培養検出菌の薬剤耐性化について比較検討します。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①後ろ向き調査観察研究であり、臨床検査データベースより情報を収集し統計学的解析を行います。 ②調査項目:・患者年齢・診断名・抗菌薬治療内容・入院歴(原疾患の増悪による入院)・喀痰培養検査 ③感染管理室:長澤正之、加藤智之、総合診療科:梶原秀樹、リハビリテーション科:杉田陽一郎、呼吸器内科:鎌倉栄作、瀧玲子 ④感染管理室・小児科 長澤 正之
問合せ先	当研究に自分の情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之  TEL:0422-32-3111(代表) 6812(事務局内線) FAX:0422-32-3525